

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ		平成6年3月23日		椎葉 小夜子		〒 810-0014 (住所) 福岡県福岡市中央区平尾1丁目13番32号 (電話) 092-522-3135				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人西鉄学園		昭和37年2月27日		部谷 由二		〒 816-0922 (住所) 福岡県大野城市山田3丁目12番1号 (電話) 092-586-2480				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
商業実務	職業実践専門課程		エアライン科		平成 7(1995)年度		-		平成26(2014)年度	
学科の目的	遵法精神を有し、他者を思いやるホスピタリティマインド、協調性を身につけ、自ら考え主体的に行動できる人材を育成する。 航空業界で働く客室乗務員、グラウンドスタッフ、グラウンドハンドリングを目指すための必要な知識技能を修得する。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	航空業界で求められる専門知識、語学等を修得するためのカリキュラム、学習と実務を一体化させる実習の双方向の学びで、業界で働く覚悟を持たせる プロの講師陣による実践的な指導、企業との連携により、現場に通用する即戦力を養う アマデウスシステム検定、実用英語技能検定、TOEIC等									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	〇〇 単位時間	〇〇 単位時間	〇〇 単位時間	〇〇 単位時間	
		122 単位		68 単位	74 単位	20 単位	0 単位	0 単位		
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
110 人	71 人		7 人		0 %		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		47 人							
	■就職希望者数(D)		45 人							
	■就職者数(E)		43 人							
	■地元就職者数(F)		23 人							
	■就職率(E/D)		96 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		53 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 航空業界 スカイマーク㈱、ANAエアポートサービス、㈱JALスカイ九州										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載					無				
	評価団体: 〇〇〇〇					受審年月: 〇年〇月		評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇		
当該学科のホームページURL	https://www.ibc.ac.jp/courses/airline.html									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					〇〇 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					〇〇 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					〇〇 単位時間				
	うち必修授業時数					〇〇 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					〇〇 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					〇〇 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					〇〇 単位時間				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					122 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					20 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					1 単位				
	うち必修単位数					30 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					8 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数					0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					16 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
教育の質の保証及び改善をするため、教育活動の状況に関する評価を行い、業界の要請を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。
即戦力となれるよう企業実習、業界見学を通し実際の企業等の求める航空業界の接客を学び実践力としての技術を身に付ける。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校務運営規程に基づき教育課程編成委員会は理事会の下に置く。委員会で出た意見は、カリキュラム会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。

・校務運営規程第6章 教育課程編成委員会第11条

・校務運営規程第8章 校務分掌第14条

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
江里口 愛	THE BASICS FUKUOKA	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本 周史	株式会社西鉄ホテルズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
有隅 基樹	JR九州サービスサポート株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
水城 弘幸	西鉄旅行株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
浜本 研三郎	株式会社JALスカイ九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
尾沼 雄一	株式会社JALグランドサービス九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
渡邊 洋二	公益財団法人産業雇用安定センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
伊賀上 恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
牟田口 真理子	学科長(国際ホテルマネジメント科)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
長野 美穂	学科長(ホテル・ブライダル科)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
原田 歩	学科長(エアライン科)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
池田 香織	学科長(国際ビジネス科)	令和7年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月7日 10:00～12:00

第2回 令和6年9月6日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

●主体性のある人材育成について

・大勢の中挙手や発言ができるのは理想だが、最初からそのレベルを求めるのではなく、段階を踏んでレベルアップする工夫が必要

→小グループで話し合い全体で共有することを授業に取り入れた

・準備期間を与え、役割分担の上完成させるような課題に取り組むのも効果的

→業界見学のグループワークを前後3週間準備期間を設け研究発表を行った

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校教育に理解があり、後継者育成の一環として実務の経験ができる場を積極的に提供し、学習成果の評価を行う体制をとることが可能な企業を選定している。また、学校が教育している知識や技術等の習得が可能で且つ後継者の育成に力を注ぐ企業への新規開拓も実施している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習の実施前に打ち合わせを行い、実習内容の詳細を決定する。期間実施中、担任が各企業を訪問し、学生の学習状況について直接確認するとともに実習担当者との情報交換を行う。

実習終了時には、実習担当者による学生の学習成果の評価を踏まえ、担任が単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
エアカーゴ概論	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	好感を持たれる笑顔が映える顔づくりを学ぶ	JALカーゴサービス九州
ホスピタリティ学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	危険物取扱者乙種4類の免許取得を目指し、危険物取扱全般を学ぶ	西鉄エアサービス
グランドハンドリング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	大勢のお客さまの前で話すことを想定し、表情や話し方を磨く	JALグランドサービス九州
企業実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	行事によって調和と自己啓発を図る 新入生オリエンテーション1・2・3/ スポーツ大会/業界見学	JALスカイ九州、ANA福岡空港、スカイマーク、福岡空港サービス等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
・教職員規程 第1章及び第2章 研修計画(教職員研修規程 第2章 第6条による)		
(1)学校及び部室主催の研修 年1回以上		
(2)関係団体や業者が主催する研修 不定期年1回以上		
(3)校長により承認された業界実習や通信教育等の自己啓発研修 適宜		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	業界見学	連携企業等: 株式会社JALスカイ九州等
期間:	2024/10/22～2024/10/22	対象: 教職員
内容	卒業生との意見交換	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	就職セミナー	連携企業等: 西鉄エアサービス株式会社
期間:	2025/1/16～2025/1/17	対象: 教職員
内容	就職面接時における企業側の視点を知り、今後の指導についてのアドバイスを頂く	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	業界見学	連携企業等: 西鉄エアサービス株式会社
期間:	2025/7/2～2025/7/2	対象: 教職員
内容	航空業界の動向についての意見交換	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	就職セミナー	連携企業等: 西鉄エアサービス株式会社
期間:	2026/1/15～2026/1/16	対象: 教職員
内容	就職面接時における企業側の視点を知り、今後の指導についてのアドバイスを頂く	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

職業教育を通して人間性を高め、自ら道を切り拓き、多様化する社会に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、教育の質の保証・社会に対する説明責任と学校評価を通じガバナンス改善に向けた取組を促進していくことを目的とする。自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校と密接に係る者の理解促進や教育活動・学校運営に活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念、教育方針 ・目標 ・育成人材像
(2)学校運営	・運営方針 ・事業計画 ・組織運営 ・人事、給与制度 ・意思決定システム ・情報のシステム化
(3)教育活動	・教育課程の編成方針、実施方針 ・教育課程 ・キャリア教育 ・授業評価・成績評価 ・修了認定基準 ・資格の位置づけ ・教員研修 ・組織体制
(4)学修成果	・就職率 ・資格の取得率 ・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	・就職等進路に関する支援組織体制 ・退学率等の低減 ・学生相談・経済的支援体制 ・健康管理 ・課外活動 ・保護者、卒業生との連携体制
(6)教育環境	・施設、設備、教育用具等 ・実習、海外研修等 ・防災組織体制 ・安全管理体制
(7)学生の受入れ募集	・学生募集 ・入学選考基準 ・学納金
(8)財務	・収支状況
(9)法令等の遵守	・法令に基づく学校運営 ・個人情報保護 ・自己評価 ・学校関係者評価 ・情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	・社会貢献、地域貢献の実施 ・ボランティア活動の奨励と支援
(11)国際交流	・国際交流の取り組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を年間2回開催し、当該意見を教育活動その他の学校運営の改善等に活用する。意見・質問：地域との関わりについての活動状況 活用：学校周辺地域への迷惑行為の防止を兼ねて職員が積極的に関わっている。意見・質問：収支状況が現在の公表方法では改善されているかが不明 活用：前年度と比較ができるように対処した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年10月1日

名 前	所 属	任期	種別
江里口 愛	THE BASICS FUKUOKA	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
山本 周史	株式会社西鉄ホテルズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有隅 基樹	JR九州サービスサポート株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
水城 弘幸	西鉄旅行株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
浜本 研三郎	株式会社JALスカイ九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
尾沼 雄一	株式会社JALグランドサービス九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
渡邊 洋二	公益財団法人産業雇用安定センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地方団体等役員
伊賀上 恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地方団体役員
平野 孝幸	教育経験者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長経験者
松藤 大助	日本郵便株式会社 竹下郵便局 局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ibc.ac.jp/about/schoolinfo.html>

公表時期: 令和7年11月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報をホームページ等において開示し、企業の関係者等に職業人を育成する本校の教育内容について理解を求め、企業関係者と連携を図り業界のニーズを踏まえた授業内容や方法の改善につなげたい。企業等の学校関係者との連携をし、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を、具体的に分かりやすく、提供するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・建学の精神 ・教育方針 ・校長名、所在地、連絡等 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム、年間授業スケジュール ・資格
(3)教職員	・教員の担当科目、担当学年
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育 ・企業実習 ・就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・課外活動(部活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援(健康診断、学生相談等)
(7)学生納付金・修学支援	・学生給付金 ・経済的支援措置(奨学金、授業料減免等)
(8)学校の財務	・収支状況
(9)学校評価	・自己点検、評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外実習 ・外国の学校等との交流 ・外国人留学生
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(募集要項))

URL: <https://www.ibc.ac.jp/about/schoolinfo.html>

公表時期: 令和7年11月1日

授業科目等の概要

(職業実践専門課程 エアライン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			航空業界研究	航空業界の職種・業務内容を学ぶ 航空業界の歴史・現状・問題点等を理解する	1 通	60	4	○			○			○	
2	○			エアカーゴ概論	航空貨物取扱全般の知識を習得する その他付随する他業務についても学ぶ	1 通	60	4	○	△		○			○	○
3	○			ホスピタリティ学	航空業界におけるホスピタリティについて 実践例を交えながら気づきの感度を高める	1 前	30	2	○	△		○			○	○
4	○			ビジネスマナー	航空業界の新社会人として必要なマナーを 習得する	1 通	60	4	○			○		○		
5	○			TOEIC/英検対策Ⅰ・Ⅱ	実用英語能力検定の合格またはTOEICの高得点 取得を目指す	1 通	120	8		○		○			○	
6	○			就職活動講座	就職活動の流れを知り、自己分析・企業研究 を行い、就職できる力をつける	1 通	60	4	○	△		○		○		
7	○			コミュニケーション イングリッシュ	演習を通して英会話能力を身につける	1 通 2 通	120	8		○		○			○	
8	○			第2外国語 (中国語/韓国語)	中国語または韓国語の能力を習得する	1 通 2 前	90	6		○		○			○	
9	○			SPI言語対策	就職試験における筆記試験（言語能力検査） に合格できる力を習得する	1 通 2 前	90	6	○			○			○	
10	○			SPI非言語対策	就職試験における筆記試験（非言語能力検査） に合格できる力を習得する	1 通 2 前	90	6	○			○			○	
11	○			コンピュータ	文書作成・表計算の基礎知識を習得する	1 通 2 通	120	8		○		○			○	
12	○			ペン字	演習により、美しい文字を習得する	1 後	30	2		○		○			○	
13	○			フライトオペレーション	航空機の到着から出発までの運航の流れを 理解し、運航に必要な知識を習得する	2 前	30	2	○			○			○	
14	○			コミュニケーション学	講義・演習を通し、コミュニケーションの 大切さを学ぶ	2 前	30	2	○	△		○			○	
15	○			観光英語	航空・観光系の英語表現を学び、会話力を 習得する	2 通	60	4	○	△		○			○	

16	○		手話	演習を通して手話能力を習得する	2 前	30	2		○		○		○	
17	○		航空業界試験 対 (CA/GS/GH)	航空業界就職試験にこうかくできる力を習得する	1 後	30	2	△	○		○		○	
18	○		接客英語	航空業界での専門的な用語や言い回しを読む・書く・聞く・話すの4技能を通して習得する	2 前	30	2		○		○		○	
19	○		航空機概論	航空機の機体構造・運航システムを学ぶ	2 後	30	2	○			○		○	
20	○		観光地理	世界の国や都市、観光資源について学ぶ	2 前	30	2	○			○		○	
21	○		社会情勢研究	世の中の流れに興味を持ち、理解し、自分の意見を交えて伝えられるようになることを目指す	2 後	30	2	○			○		○	
22	○		ユニバーサル サービス	障がい者や高齢者の生活の一部を体験し、理解を深め、介助の知識を身に付ける	1 前	30	2	△	○		○		○	
23	○		ブラッシュ アップマイン ド	社会人としてより良いスタートが切れるように心構えや考え方について考える	2 前	30	2	○	△		○		○	
24	○		L H R	学校生活における調和と自己啓発を図る	1 通 2 通	120	8		○		○		○	
25		○	空港実務	国内線および国際線の基礎知識や旅客の流れを学び、グランドスタッフに求められる能力を理解する	1 通	60	4	○	△		○		○	
26		○	グランドハン ドリング	航空会社が求めるグランドハンドリング業務全般を理解する	1 通	60	4	○	△		○		○	○
27		○	CA受験対策	情報の収集・自己分析を進め、模擬面接を中心に面接対策を行う	1 通 2 前	90	6	○	△		○		○	
28	○		アマデウスア ルテア	GDSの存在を理解し、予約等基本操作を習得する	1 通	60	4		○		○		○	
29		○	アマデウスア ルテアⅡ	予約等基本操作に加え、運賃、発券等応用操作を習得する	2 通	60	4		○		○		○	
30		○	ビューティー	好感を持たれる笑顔が映える顔づくりを学ぶ	1 前	30	2		○		○		○	
31		○	危険物取扱者 試験対策	危険物取扱者乙種4類の免許取得を目指し、危険物取扱全般を学ぶ	1 通	60	4	○			○		○	○
32		○	プレゼンテー ション	大勢のお客さまの前で話すことを想定し、表情や話し方を磨く	1 後	30	2	△	○		○		○	
33		○	CAゼミ	ディスカッションを通して、社会人としての心構えを体得する	2 後	30	2	△	○		○		○	

34	○		就職活動セミナー1・2	自己分析・企業研究を進め、面接対策を行う 筆記試験対策としてSPI言語・非言語・英語を学ぶ	2 前	60	4	△	○		○		○	○	
35	○		行事Ⅰ	行事によって調和と自己啓発を図る 新入生オリエンテーション1・2・3/スポーツ大会/業界見学	1 前	30	1	△	△	○		○	○		○
36	○		行事Ⅱ	行事によって調和と自己啓発を図る 業界見学/研究発表会/ボウリング大会/就職強化セミナー1・2	1 後	30	1	△	△	○		○	○		○
37	○		行事Ⅲ	行事によって調和と自己啓発を図る 2年次オリエンテーション/若年者啓発講座/スポーツ大会/研究発表会/ボウリング大会	2 後	30	1	△	△	○		○	○		○
38	○		研修旅行	旅行を通じて国際感覚と業界への理解、クラスの親睦を深める	1 後	30	1			○		○	○		○
39	○		企業実習1～4	空港にて現場での実習を行い、業界への理解を深める	2 前	120	4			○		○	○		○
40		○	企業実習5～16	空港にて現場での実習を行い、業界への理解を深める	2 前	360	12			○		○	○		○
41		○	基礎英語強化	基礎から英語を学びなおす	1 前	30	2	○			○			○	
42		○	TOEIC	TOEICの高得点取得を目指す	1 後 2 前	60	4		○		○			○	
43		○	サービス介助士2級講習	サービス介助士2級取得のため知識を習得する	2 前	15	1	△	○		○			○	○
44		○	卒業論文	講師の指導の下、関心のあるテーマについて卒業論文作成を行う	2 後	15	1		○		○		○		
合計							39科目	122単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：1700単位時間（110単位）以上の授業を履修し単位認定をされること		1学年の学期区分	2期
履修方法：カリキュラムの必修授業の履修及び選択必修授業の中から履修する		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

エアライン科 教職員一覧

教職員名	主な担当科目
原田 歩	空港実務
小林 俊也	就職活動講座
友納 真	観光地理
田中 友加利	ビジネスマナー
吉原 正彦	航空業界研究
秦 隆益	エアカーゴ概論
益田 和恵・小杉 恵美子	ホスピタリティ学
久保田 博子	コミュニケーションイングリッシュ
松下 良朗	グランドハンドリング
横瀬 敦子	アマデウスアルテア
山口 ゆみこ	ビューティー
池内 勝	危険物取扱者対策
江口 由香	手話
青山 祐子	中国語
権 京愛	韓国語
乙咩 清美	コンピュータ
高田 絵里子	CA受験対策
宮前 訓子	CA受験対策
田中 友加利	面接対策
前田 恭子	SPI言語対策
榎木田 裕夫	SPI非言語対策
挽田 雅子	TOEIC
平島 千華	英検対策
日高 郁子	英検対策
加藤 亜希	英検対策
脇谷 奈々	英検対策
猪口 明日香	英検対策
Pat Brown・秋満 陽子	接客英語
しんがき 佐世	ペン字
Christian Meikado	コミュニケーションイングリッシュ